



# 体験活動としての野外教育による生活様式変容の把握

キーワード 体験活動, 野外教育, 組織キャンプ, 生活様式, 生活の仕方, 生活技術

## 研究内容

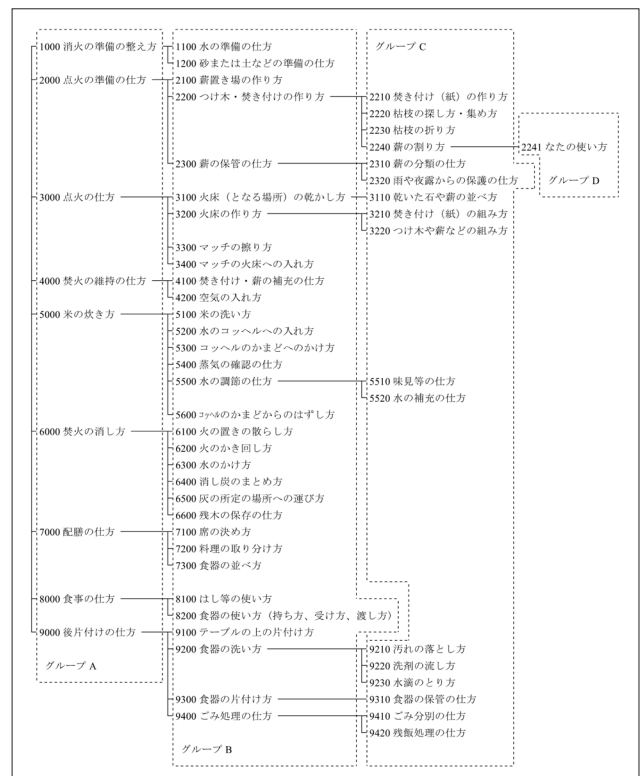
野外教育として行われる組織キャンプにあつては、参加後の日常生活における生活様式（生活の仕方、生活技術も含む）変容が期待されています。その生活様式は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行を経た現在、ウィズ(with)コロナ、ニュー・ノーマル(新常态)(New Normal)、グリーン・リカバリー (Green recovery) などと相俟って、今後の社会変革としての「新しい生活様式」にシフトされており、その変容を把握するための事例研究を重ねています(白木, 2021)。あわせて、体験活動としての野外教育の効果解明を目的とした全国的な実態調査((独)国立青少年教育振興機構, 2011)や開発研究((独)国立青少年教育振興機構, 2008)にも参画してきました。現在は、生成 AI などの技術発展も見据え、仮想体験も含む体験活動(白木, 2001)と生活様式変容の関係解明にも着手しています。

## 関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析：食事の場合」日本生涯教育学会論集 20, p.133-140, 1999
- ・「小中学生の実体験活動と仮想体験活動の特徴」日本生涯教育学会論集 22, p.137-144, 2001
- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構「事業プログラムの効果測定方法の開発研究」報告書, 同発行, 2008
- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書 平成 22 年度調査, 同発行, 2011
- ・「新しい生活様式」に向けた青少年の組織キャンプの特徴に関する探索的研究：事業担当者に対する面接調査を手がかりに」日本生涯教育学会年報, 第 42 号, p.195-210, 2021

## 社会連携・産学連携の可能性

- ・学校教育および社会教育における自然体験活動の効果測定ツールの開発
- ・生成 AI などの技術活用を見据えた野外教育プログラム運営の評価方法論の構築などが可能です。



野外教育における生活技術の構造例ー野外炊事の場合ー (白木, 1999)